

慈照寺（銀閣寺）周辺エリア

～慈照寺（銀閣寺）門前・大文字・哲学の道・法然院～

慈照寺（世界遺産）

「銀閣寺」の通称で名高い慈照寺は、15世紀末、室町將軍足利義政が晩年の隠居所として造営した東山山荘を前身とするもので、応仁の乱後、淨土寺のあった場所に建てられた。¹⁾

銀閣寺は敷地内に山裾の傾斜地を取り込み、境内散策路の途中から、吉田山に向かって周辺市街地を見渡すことができる。



銀閣寺敷地内の展望所からの眺め

哲学の道・琵琶湖疏水分流

大正時代、京都帝国大学の西田幾多郎、河上肇、田辺元らの哲学者が散策したことから「哲学の道」と呼ばれる。明治18年から23年まで行われた琵琶湖疏水工事により、蹴上から市街北方を迂回し堀川に合流する疏水分線が完成し、疏水に沿う小道として、京都市が昭和45年に市民の遊歩道として開いた。²⁾みち沿いには、疏水と緑豊かな景観が見られる。



法然院通

明治2年の絵図には法然院・安樂寺の前をとおり、南下する通りとして、既に描かれている。

銀閣寺と法然院を結ぶ通りの沿道は、和風門や塀を構え、緑が豊かな戸建住宅が町並みを形成している。



法然院周辺の町並み



法然院入口※

エリア概要

- 吉田・鹿ヶ谷地域は、東山連峰を構成する銀閣寺山や大文字山を背景とし、市街地の中には、船岡山や双ヶ岡と共に都を守る高みとして祭祀的空間であったといわれる吉田山が存し、古来、起伏のある地形を生かした山荘や慈照寺などの社寺が営まれたところである。
- 大文字山の西麓部は急峻であるが、裾野部分に慈照寺・法然院・安樂寺などが立地している帶状緩傾斜地が開けている点に特徴がある。



慈照寺（銀閣寺）門前

集落の形成は応仁年間（1467～67）以降といわれる。足利義政に付き従った近習の者が、この地に定住したとも伝えられる。³⁾

集落は慈照寺の西に位置し、近世を通じておおむね家数50軒足らず、人口は200人程度であった。⁴⁾

通りを慈照寺に向かって進むと、大文字山を望むことができ、緑の多い落ち着いた景観となっている。



大文字

今日まで引き続いている五山送り火の代表とされる。⁵⁾



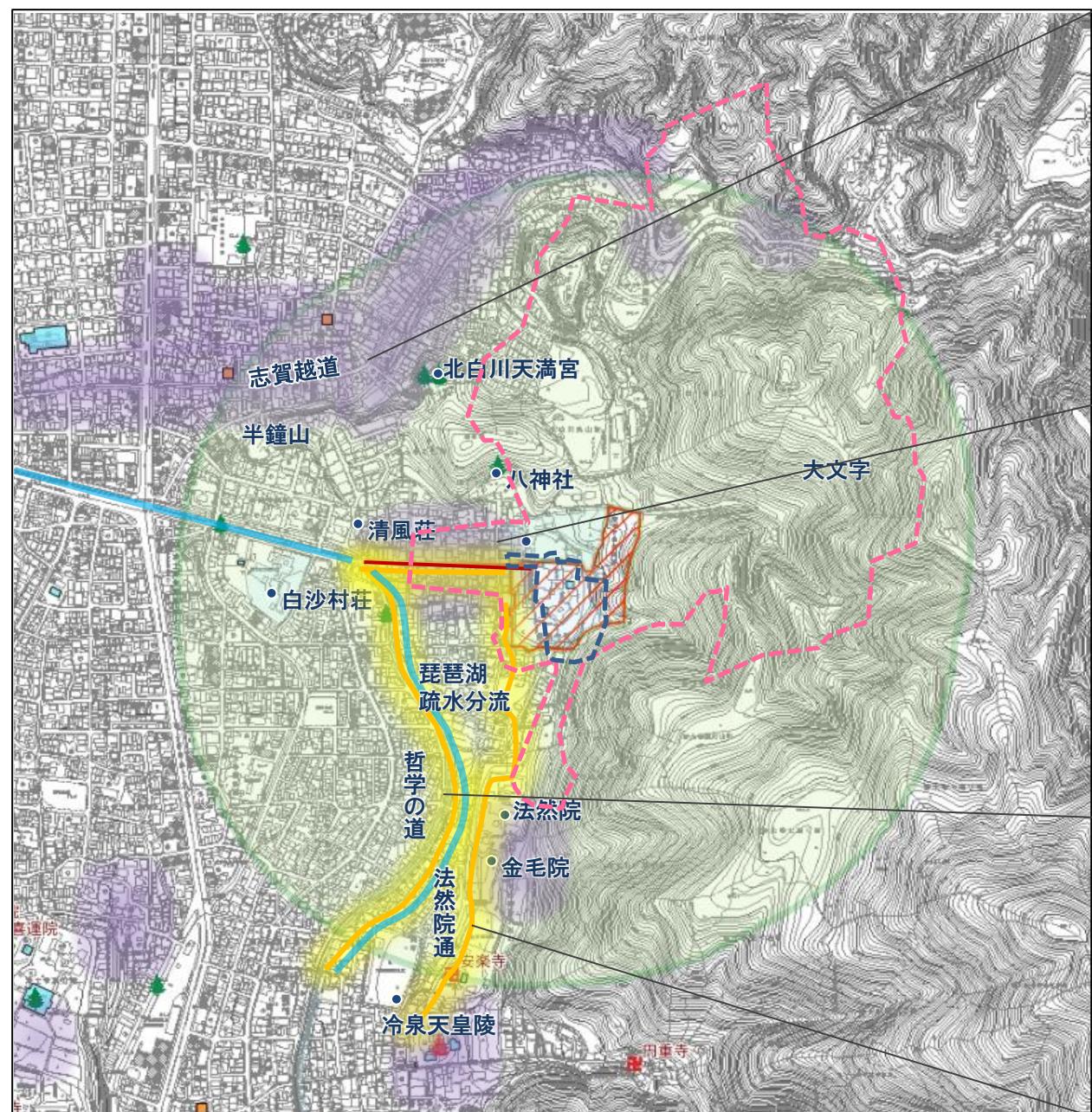
白沙村莊

大正5年は、画家橋本関雪によって石橋町に白沙村莊が建造され、疏水路の端や閑静なたたずまいをみせる。



- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 特に着目する地域
- 特に着目する通り
- (白線) エリアの主な通り

エリアの概要



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

建造物・庭園	樹木
■ 視点場（境内）	△ 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
— 視点場（参道等）	◆ 歴史的意匠建造物
■ 近景デザイン保全区	● 界わい景観建造物
— 特に着目する通り	■ 京を彩る建物や庭園
■ 明治25年以前から	■ 文化財（建築物）
■ 存在する市街地	■ 文化財（史跡・名称）
■ 界わい景観整備地区	■ 国土地理院社寺データ等
※	▲ 天然記念物 ■ 保存樹 ● 区民の誇りの木
	□□ 明治16-18年時点の境外 □□□ 明治16-18年時点の境内

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m2以上の社寺データ

志賀越道

旧白川道。平安時代から歌に詠まれた道である。

白川村は、すでに縄文時代前期から人々の集落が営まれた地であり、京都盆地にあっても、もっとも早くから開発された地であった。⁶⁾

明治になってからの白川村は、戸数313、人口1608を数え、旧愛宕郡の村の中でも最大規模を誇った。⁷⁾

現在は裏道のような様相で、街道筋には虫籠窓の古い民家がわずかに残っているだけで、商店、民家、アパートが混在している。⁸⁾



慈照寺門前集落

集落の形成は応仁年間（1467～67）以降といわれる。足利義政に付き従った近習の者が、この地に定住したとも伝えられる。⁹⁾

集落は慈照寺の西に位置し、近世を通じておおむね家数50軒足らず、人口は200人程度であった。¹⁰⁾

通りを銀閣寺に向かって進むと、大文字山を望むことができ、緑の多い落ち着いた景観となっている。



哲学の道

京都帝国大学の西田幾多郎、河上肇、田辺元らの哲学者が散策したことから「哲学の道」と呼ばれる。

明治18年から23年まで行われた琵琶湖疏水工事により、蹴上から市街北方を迂回し堀川に合流する疏水分線が完成した。

琵琶湖疏水に沿う小道で、京都市が昭和45年に市民の遊歩道として開いた。¹¹⁾沿道には、疏水と緑豊かな景観が見られる。



法然院通

明治2年の絵図には、法然院・安楽寺の前をとおり、南下する通りとして、既に描かれている。

昭和28年には、銀閣寺付近の通り西側は市街化が進んでいるが、東側はあまり進んでおらず、寺社の並ぶ景観が見られる。

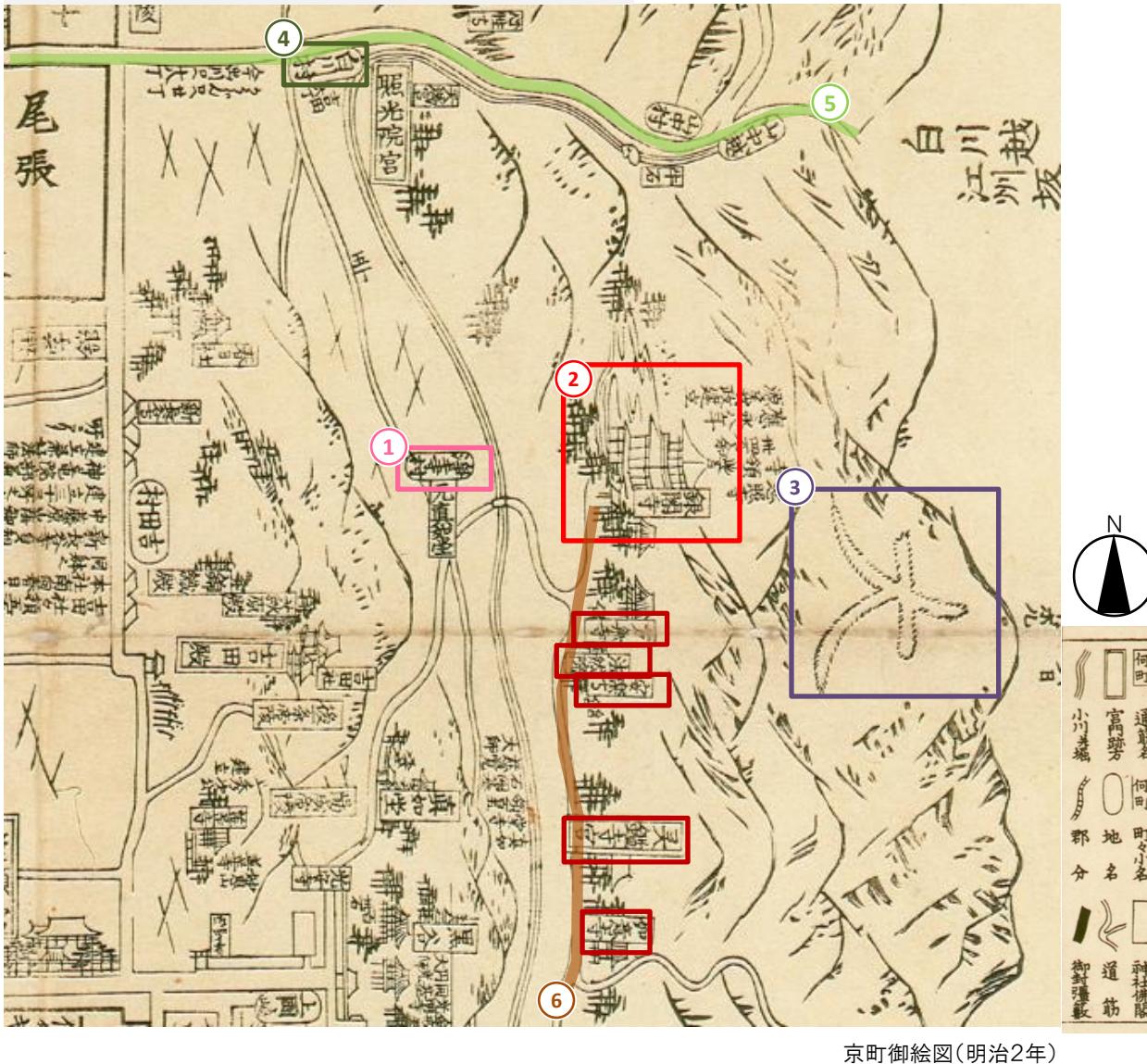
また、通りの沿道は、和風門や塀を構え、緑が豊かな戸建住宅が町並みを形成している。



法然院入口※

エリアの土地利用の変遷(1)

明治2年(1869年)(上地政策による境内地減少前)



①浄土寺村

浄土寺の地名は、東山山荘(慈照寺)の創建前にこの地にあった天台宗浄土寺に由来するといわれる。¹²⁾

②慈照寺

「銀閣寺」の通称で名高い慈照寺は、15世紀末、室町將軍足利義政が晩年の隠居所として造営した東山山荘を前身とするもので、応仁の乱後、浄土寺のあった場所に建てられた。¹³⁾

③五山の送り火

如意ヶ嶽の中ほどの山腹に、「大」の字が描かれる。今日まで引き続いて行われている五山送り火の代表とされる大文字である。かつては浄土寺の村民の手によって行われたものであり、松の薪をそろえ、火床を用意し、毎年盂蘭盆会の旧暦7月16日にその火は点された。¹⁴⁾

④白川村

北白川扇状地と呼ばれるこの地一帯は、白川によって運ばれた黒雲母花崗岩砂礫によって作られたもので、すでに縄文時代前期から人々の集落が営まれた地であり、京都盆地にあっても、もっとも早くから開発された地であった。¹⁵⁾

近江と結ぶ山中越の京側からの入口に位置する北白川は、戦国時代に入って京都争奪のなかで、きわめて重要視されるようになった。

白川石として知られた石材業は、少なくとも江戸時代初頭には白川村の代表的産業として成り立っていた。¹⁶⁾

明治になってからの白川村は、戸数313、人口1608を数え、旧愛宕郡の村の中でも最大規模を誇った。¹⁷⁾

⑤志賀越道

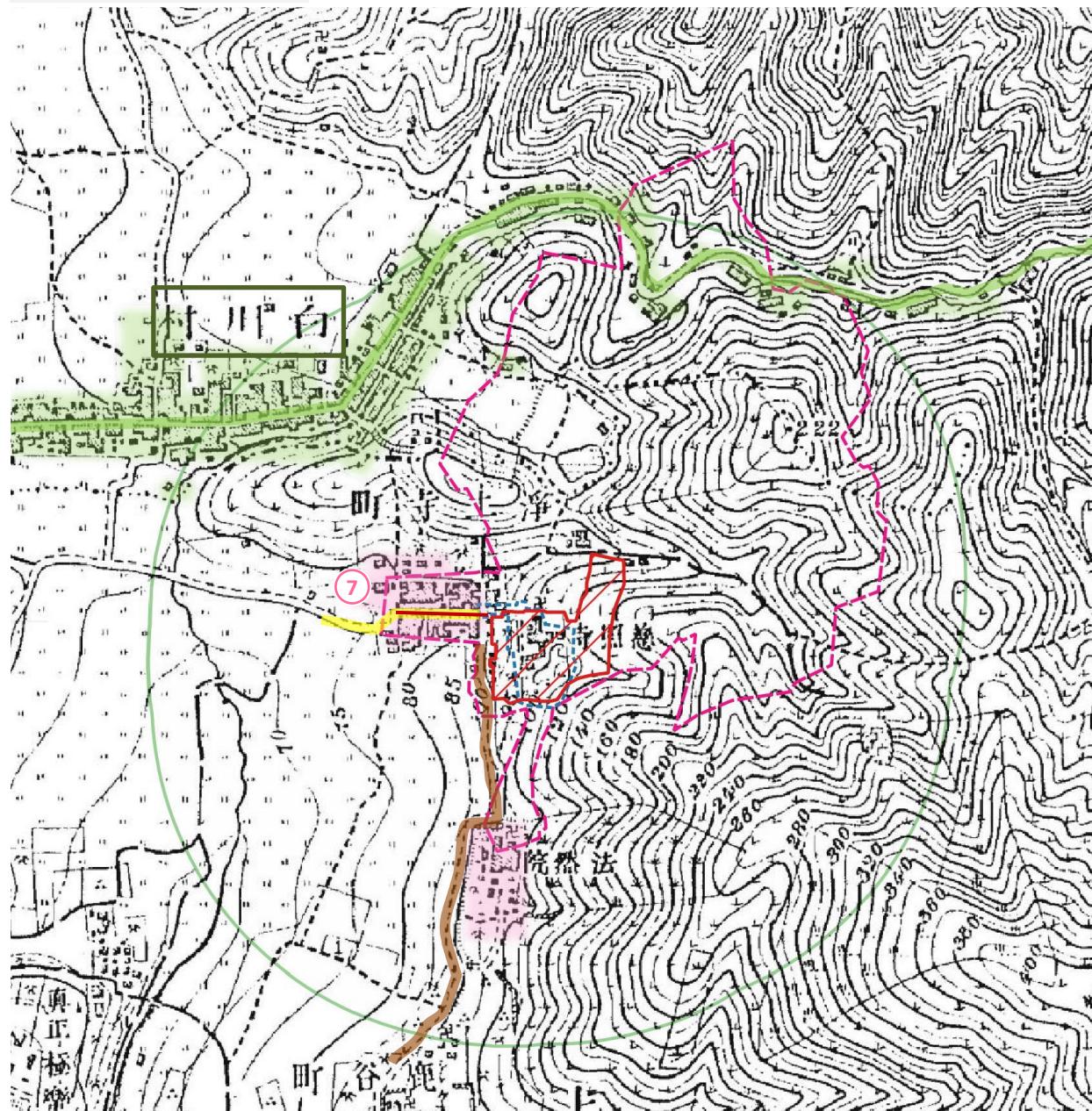
旧白川道。平安時代から歌に詠まれた道である。現在は裏道のような様相で、街道筋には虫籠窓の古い民家がわずかに残っているだけで、商店、民家、アパートが混在している。¹⁸⁾

⑥法然院通

法然院・安楽寺の前をとおり、南下する通りとして、既に描かれている。

エリアの土地利用の変遷 (2)

明治25年(1892年)



明治16-18年時点の境外地

近景デザイン保全区域

資料: 仮製地形図(明治中期)(国土地理院所蔵)
画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

明治16-18年時点の境内地

視点場(境内)

特に着目する通り

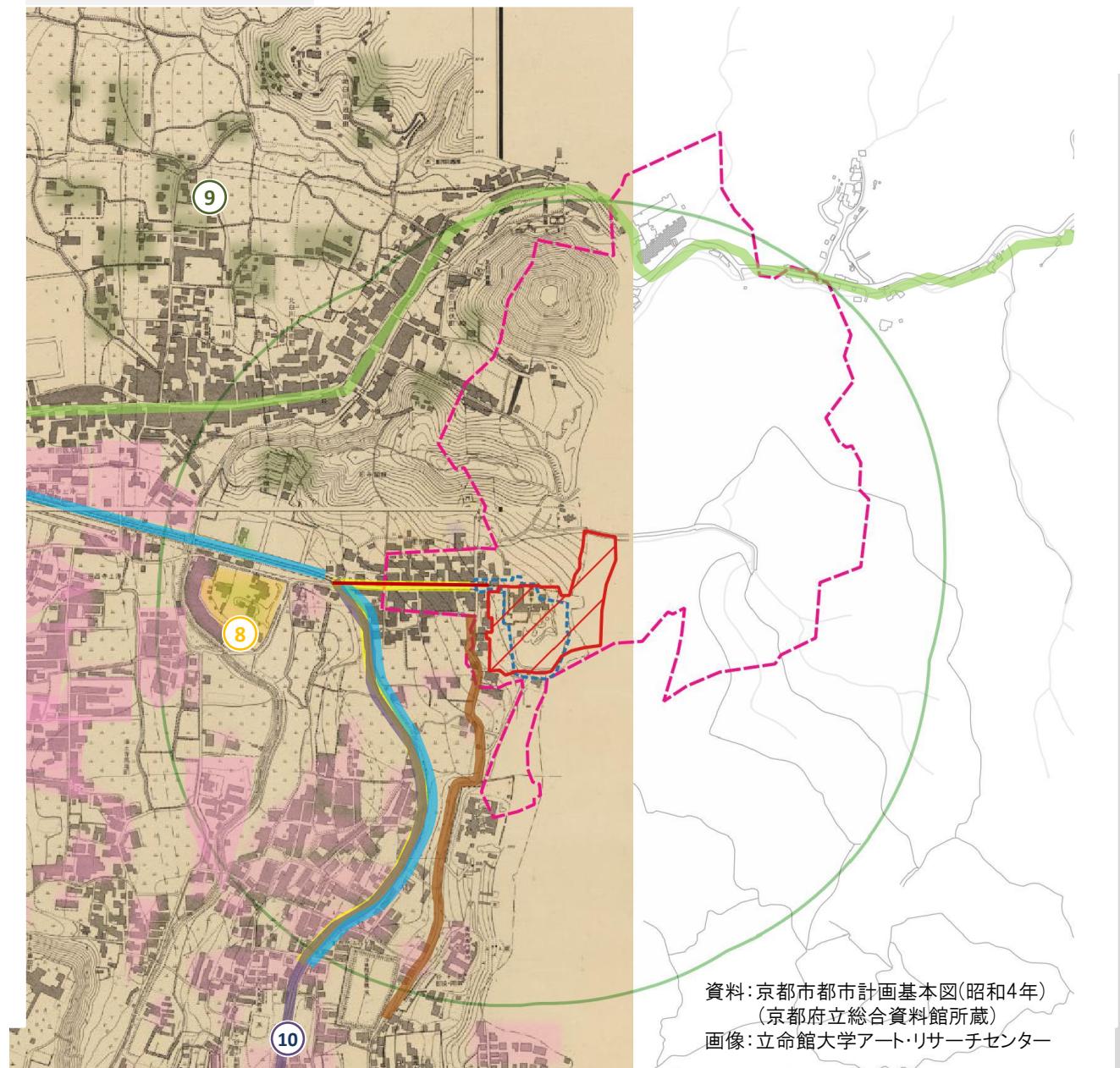
視点場(参道等)

⑦ 銀閣寺門前集落

集落の形成は応仁年間（1467～67）以降といわれる。足利義政に付き従った近習の者が、この地に定住したとも伝えられる。¹⁹⁾

集落は慈照寺の西に位置し、近世を通じておおむね家数50軒足らず、人口は200人程度であった。稲作のほか畠地では瓜・茄子・菜種・大根などを産したほか若干の茶園をもち、山稼をも兼業した。²⁰⁾

昭和4年(1929年)



資料: 京都市都市計画基本図(昭和4年)
(京都府立総合資料館所蔵)

画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

⑧ 白沙村莊

大正5年には、画家橋本関雪によって石橋町に白沙村莊が建造され、疏水路の端や閑静なたたずまいをみせる。²¹⁾

⑨ 白川村

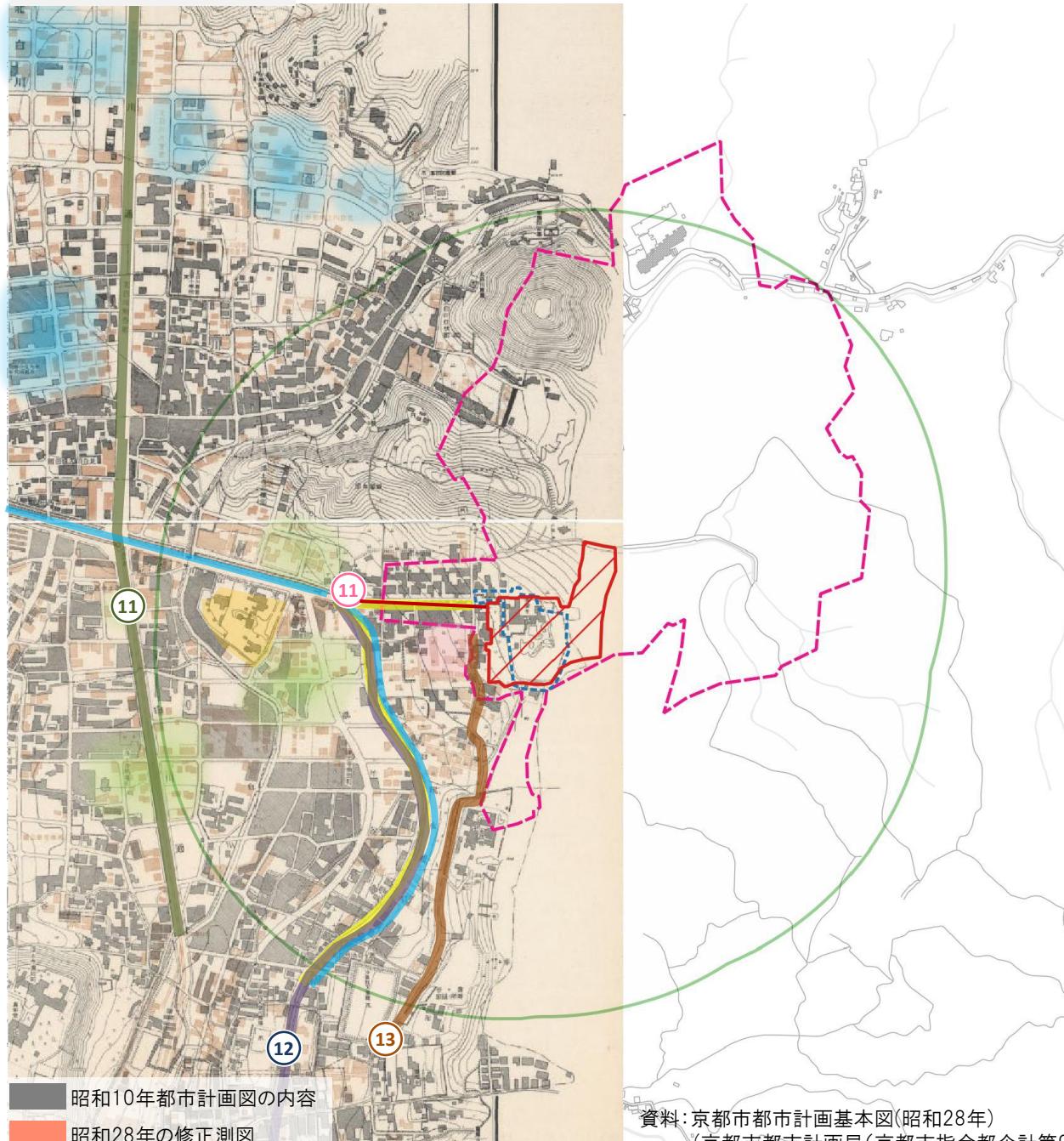
大正末年から昭和初期にかけて、京都帝国大学の学部や諸施設の一部が白川村に建設されたことは、同村の様相を一変させることになった。²²⁾

⑩ 哲学の道

京都帝国大学の西田幾多郎、河上肇、田辺元らの哲学者が散策したことから「哲学の道」と呼ばれる。市街化が急激に進んでいる。明治18年から23年まで行われた琵琶湖疏水工事により、蹴上から市街北方を迂回し堀川に合流する疏水分線が完成した。²³⁾

エリアの土地利用の変遷（3）

昭和28年(1953年)



資料: 京都市都市計画基本図(昭和28年)
(京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))
画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

⑪ 白川村・慈照寺門前周辺

昭和13年から昭和34年まで区画整理事業が施行されるとともに、白川通が明治末期から昭和初期にかけて整備された。²⁴⁾
のちに、白川通に市電が開通したことによって宅地化が急激に進み現在に至る。²⁵⁾

⑫ 哲学の道

京都市が昭和45年に市民の遊歩道として開いた。²⁶⁾

⑬ 法然院通

慈照寺付近の通り西側は市街化が進んでいるが、東側はあまり進んでいない。

慈照寺(銀閣寺)境内の歴史的資産と守っていきたい眺め

慈照寺(銀閣寺)

慈照寺は、足利義政が文明14年（1482）に東山山麓に造営した別邸東山殿を、義政の死後禅寺に改めたものである。東山殿は西芳寺をモデルに造られ、池を囲むように觀音寺（銀閣）、持仏堂（東求堂）などの建物が配されて、文化人のサロンとして賑わっていた。その後、16世紀中期には兵火によって一時荒廃したが、17世紀中期に方丈、庫裏等の再建や、庭園、諸堂の修理がなされた。

銀閣は、長享3年（1489）に建てられた二層の楼閣で、下層は和様の書院風、上層は禪宗様の仏堂風につくられている。

東求堂は7メートル四方の入母屋造り、檜皮葺の守護仏をまつる持仏堂と書斎を兼ねた建物であり、文明17年（1485）に建てられた。この建物の背面東側に配された四畳半の「同仁斎」には付書院と違棚が設けられているが、この付書院と違棚は現存最古のものであり、書院造の源流と位置づけられている。

また庭園は、戦国時代に荒廃していたのを元和元年（1615）の復興時に改修したものと考えられており、池を中心に多くの名石・樹木が配された池泉回遊式で、石組の細部などにきめ細かい意匠が凝らされている。

この庭園は東山文化を代表する名園として、特別史跡、特別名勝に指定されており、また、銀閣及び東求堂は国宝建造物に指定されている。²⁷⁾

文化財

国宝	銀閣	371	東求堂	372
国指定特別史跡 及び特別名勝	庭園	310		
国指定史跡	旧境内	327		

[国宝]



銀閣※



東求堂※

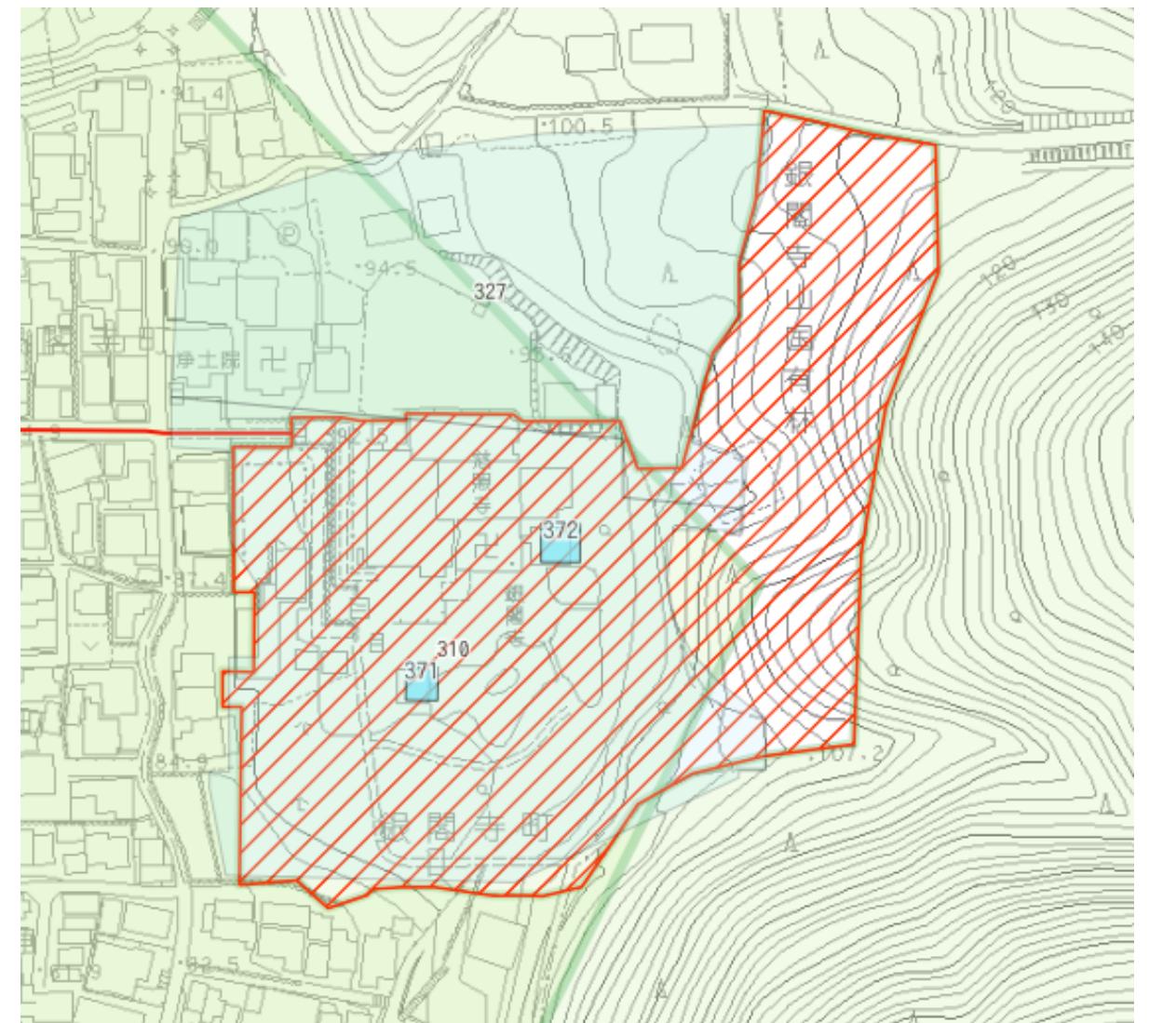
[国指定特別史跡及び特別名勝]



庭園※



旧境内※



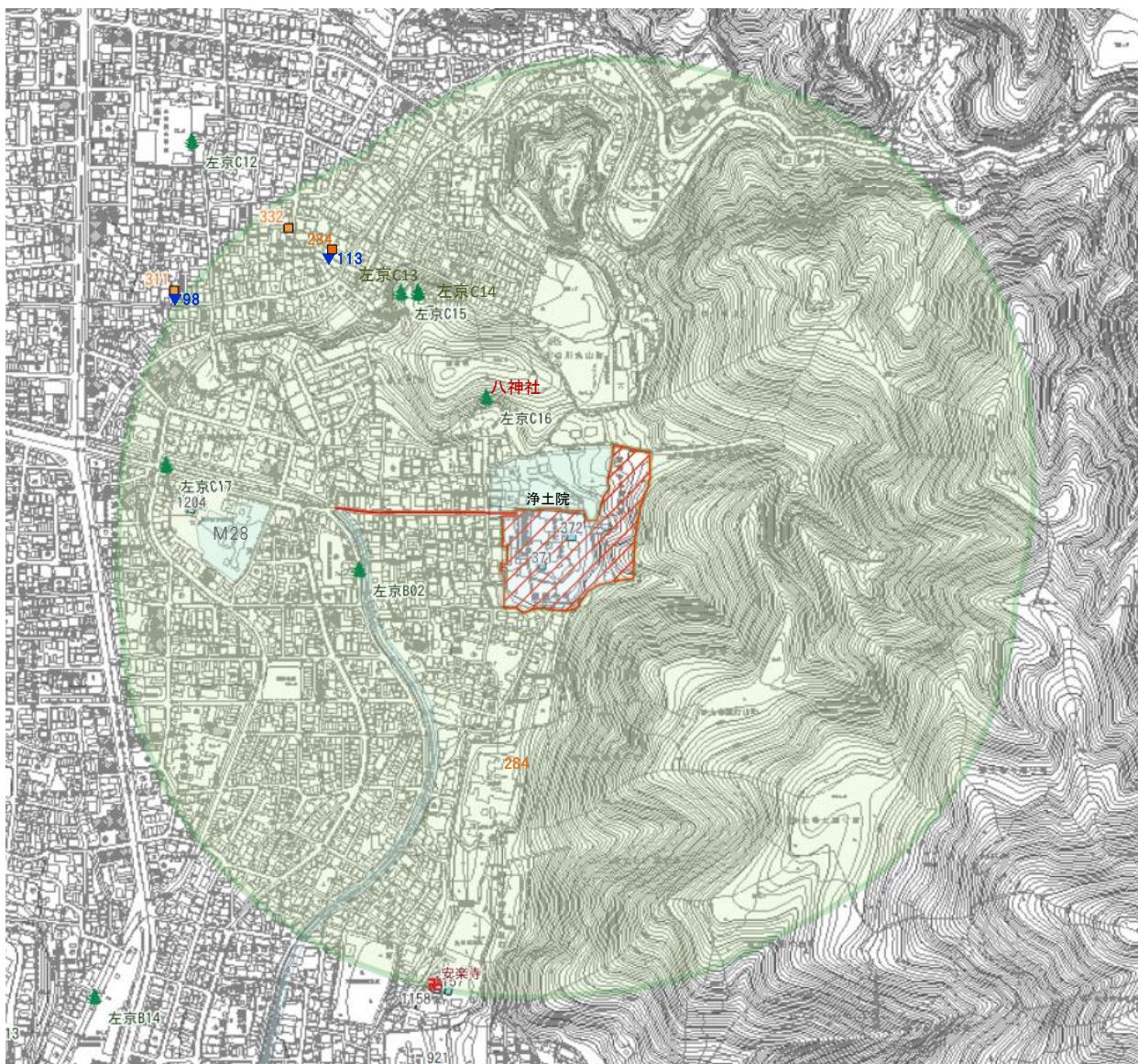
※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

建造物・庭園		樹木
■	視点場（境内）	△ 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
■	視点場（参道等）	◆ 歴史的意匠建造物
■	近景デザイン保全区域	● 界わい景観建造物
■		■ 京を彩る建物や庭園
■		■ 文化財（建築物）
■		■ 文化財（史跡・名称）
■		▲ 天然記念物
■		■ 保存樹・区民の誇りの木
■		■ 国土地理院社寺データ等

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m²以上の社寺データ

慈照寺（銀閣寺）周辺の歴史的資産(1)



* 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

- | | |
|---------------|----------------------|
| 建造物・庭園 | 樹木 |
| ■ 視点場（境内） | △ 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物 |
| — 視点場（参道等） | ◆ 歴史的意匠建造物 |
| ■ 近景デザイン保全区域 | ● 界わい景観建造物 |
| | ■ 京を彩る建物や庭園 |
| | ■ 文化財（建築物） |
| | ■ 文化財（史跡・名称） |
| 国土地理院社寺データ等 | ▲ 天然記念物 |
| ※ | ■ 保存樹・区民の誇りの木 |

* 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m²以上の社寺データ

白沙村莊庭園

[国指定名勝]



国指定名勝※

左京区浄土寺石橋町にある日本画家橋本関雪の旧宅。大正5年に建造。敷地面積約一万平方メートル。昭和42年公開。財団法人関雪記念財団が管理運営し、関雪の素描画数千点および、関雪が収集したギリシャ陶器や中国・日本の文人画などの古美術品を展示。主屋のほか、二階建、五十畳敷の大画室存古樓、地蔵菩薩立像（重要文化財）を安置する方三間、宝形造の持仏堂などがある。池泉回遊式の庭園は関雪自身の設計で、面積約5798平方メートル、存古樓の正面東側に大池をつくり、池の周囲は葩路とし、随所に石灯籠・石仏など中国・日本の石造美術品約180点を配置する。大池の南に小池をつくり、その東西に茶室倚翠亭・問魚亭を設ける。珍樹を集め、また庭石は自ら鞍馬・静原から取り寄せたものという。²⁹⁾

八神社



※

慈照寺（銀閣寺）の北に位置し、もと山王十禪師と称した。雨御中主神・高皇產靈神・神皇產靈神・足皇產靈神・生皇產靈神・御饌津神・大宮乃売神・事代主神の八神を祀り八神社とよばれる。当地にあった浄土寺の鎮守社であったが、文明14年（1482）に足利義政が東山山荘を浄土寺境内に営み、浄土寺が京都相国寺の西に移建させられた後もここに残された。江戸時代の浄土寺村の地主神で現在は毎年10月24日が例祭。延宝9年（1681）9月24日に黒川道祐は八神社の祭礼を見物して「東北歴覧之記」に「浄土寺村ニ到ル、折節今日此村ノ氏神、山王十禪師宮ノ祭トテ、賑々敷ミユ、此神輿一基、鉢五本、村中遊行、其レヨリ真如堂村旅所ノ社ニ到ル、竹ニテ御棚ヲカサリ、供物ヲ備フ、慈照寺ノ門前ニテ神輿ヲ居置ク、此所モ御棚ヲ設ク、神輿ノ上ニ鳳凰アリ、四角ノ角毎ニ燕ツクリテアリ、他ノ遺腰ニナキコトニテ、珍敷ミユ」と記す。なお宮の前（現銀閣寺町）、馬場（現浄土寺馬場町）などの旧字名は、八神社の社地跡の名残と伝え（坊目録）、浄土寺と近接して広大な境内であったことがうかがえる。³⁰⁾

清風荘【重要文化財、国指定名勝】

明治・大正・昭和期の政治家西園寺公望の別荘。左京区今出川通東大路西入田中関田町にあり、現在は京都大学が所有、迎賓館に使用。面積約4000坪。享保17年（1732）頃に徳大寺公純が別業清風館として造営。公望はこの地に生まれ、のち西園寺家を継いだ。公望の実弟春翠は住友家の養子となり、明治40年住友家が当邸を譲りうけて拡張整備、清風荘と改称し、公望の京都別荘とした。建物は構造・材料ともに近代日本建築を代表する、すぐれたもの。明治期、英國皇太子をはじめ内外貴顕が来訪し、大津で襲われた旧ロシア皇太子も当邸で静養。小川治兵衛作の築山林泉回遊式庭園は国の名勝。建物前面は芝生地で、池をうがち、起状のある明るい広庭とし、朝鮮燈籠を配す。玄関前庭は化粧砂と苔張りの中に細い黒竹を群植。前庭に続く茶室保真斎（四畳半台目）は創建当初のものという。³¹⁾

慈照寺(銀閣寺)周辺の歴史的資産(2)

法然院



※1

東山の支峰、善氣山の山麓に位置する浄土系の単立寺院。善氣山と号し、正式には本山獅子谷法然院と称す。善氣山万無教寺ともいいう。この地は建永元年（1206）法然が弟子の住蓮安樂と六時礼讃を勤めた所と伝え、寛永年間（1624-44）京都知恩院満誉の弟子で京極淨教寺（現京都市下京区）の住持道念が旧跡を探り、閑居して法然院と名付けたという（山城名跡志）。しかし道念の没後は荒廃、永宝8年（1680）知恩院の万無心阿と弟子の忍徵が中興した（東西歴覧記）。

境内には近江石塔寺（現滋賀県蒲生町）の三重塔を模した阿育王塔がたち、九鬼周造、内藤湖南、河上肇などの墓もある。また庭園の善氣水とよぶ泉は忍徵が錫杖で刺したところ湧き出でたと伝え、甘味があって茶水に適し、洛中明泉の一つ。³²⁾

浄土院



慈照寺（銀閣寺）総門のすぐ北側に位置する。浄土宗。清泰山と号し、本尊は阿弥陀如来。享保17年（1732）僧隨譽が、文明14年（1482）北築山町（現京都市上京区）に移された浄土寺の後に残った「草堂一宇」（山城名勝志）を寺としたものである。本堂には浄土寺の旧仏と伝える阿弥陀如来坐像（平安時代）を安置する。再興以来天台宗から浄土宗へ転宗した（坊目誌）。八月一六日の大文字送り火は当院で管理し、今日では通称「大文字寺」ともよばれる。³³⁾

太平治家



▼ 113 ■ 284

歴史的風致形成建造物 京都を彩る建物や庭園

指定理由(歴史的風致形成建造物)

白川石の産地として発展した北白川の地において、代々石工を生業とした屋号「太平治」の住居。大火を潜り抜けた蔵と幾度も建替えられた町家が石工の歴史と町家の伝統を歴史的意匠により現代に継承する。

(指定理由 (京都を彩る建物や庭園))

「太平治」を屋号とする石工の歴史を持つ建物。天保元年（1830）の地震後に再建されたと考えられる主屋奥には、江戸末期や明治初期の大火灾を免れたと伝わる二つの蔵がある。

大槻邸



▼ 98 ■ 311

歴史的風致形成建造物 京都を彩る建物や庭園

指定理由 (歴史的風致形成建造物)

当該建造物は、白川石の産地として知られる北白川において、石工職人の住居を現代の間取りに替えながらも当時の暮らしを歴史的意匠とともに現代に継承する貴重な建造物である。

(指定理由 (京都を彩る建物や庭園))

志賀越道沿いに建つ町家で、間口4間半の主屋と2つの蔵、庭、離れからなる。漆喰で塗りこめた軒裏の意匠は、北白川界隈の度重なる火災を受けて防火性にも配慮したものか。同家は現当主の父の代まで白川石を扱う石工で、石工業で賑わった界隈の面影を伝える。

内田家



■ 332

北白川の志賀越道に建つ住宅。白川石、花の栽培などの産業で栄えた歴史と文化のある地域である。表に蔵を構え、表側の深い庇、街道から控えた部分に建つ主屋は、北白川の重要な住宅のひとつと考えられる。

【京都を彩る建物や庭園】



安楽寺 書院（客殿）※2
国登録



レストラン ノアノア
(橋本関雪邸洋館)※2
国登録

文化財等

【国登録文化財】

樹木等

ソメイヨシノ：
疎水分線（哲学の道）

[区民の誇りの木]



左京B02

哲学の道は銀閣寺から若王子神社までの琵琶湖疏水に沿った道で、その愛称は哲学者西田幾太郎にちなんでいるといわれています。疏水沿いに桜が植えられ、京都を代表する花の名所となり、季節を問わず多くの観光客で賑わいます。



ソメイヨシノ：疏水分線

[区民の誇りの木]



サクラを両脇に列植した散策路は、銀閣寺などの周辺環境とよく調和しています。

ソメイヨシノ：疏水分線

[区民の誇りの木]



タマミズキ 左京C13

[区民の誇りの木]



秋から冬にかけて赤く熟した小さな果実は、遠方からもよく目立ちます。



ヒノキ 左京C14

[区民の誇りの木]



参道に沿って植えられたものが大きくなり、いまでは神社のシンボルとなっています。



ツクバネヒガシ 左京C15

[区民の誇りの木]



北白川の産土神（うぶすなかみ）である北白川天神宮は文明年間（1470年代）に足利義政によって現在地に移されたと伝えられています。ツクバネガシの名は、小枝の先につく数枚の葉が「羽根つき」の羽根に似ていることにちなみます。



ツブラジイ 左京C16

[区民の誇りの木]



昭和9年の室戸台風では、市内各地の多くの樹木が倒れましたが、この木は難を免れることができました。



※1：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

※2：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

東山風致地区

【景観形成の方針】

●東山地区の歴史的環境及び自然的環境

地区全体としては、多くの社寺や名勝旧跡と一体となった自然的環境の維持、その周辺の宅地の歴史的環境及び自然的環境の維持に重点を置く。また、数多く点在する社寺の参道におけるそれぞれが特色を持った優れた風致特性の保全、さらに、東山等の山を借景とする社寺や庭園も多く存在し、これらの借景空間の保全を図る。

●吉田山・鹿ヶ谷地域の落ち着いた緑の風景、山ろく景観、沿道景観

吉田山・鹿ヶ谷地域は、東山連峰を構成する銀閣寺山や大文字寺を背景とし、船岡山や双ヶ岡とともに都を守る高みとして祭祀的空間であったといわれる吉田山が存し、古来、起伏のある地形を生かした山莊や銀閣寺、金戒光明寺等の社寺が営まれている。

大文字山の西麓部は、急峻であるが、すそ野部分に銀閣寺・法然院・安楽寺等が立地している帯状緩傾斜地が開けている点に特徴があり、西側にはわずかばかりの平地部を介して、神楽岡（吉田山・黒谷）が広がっている。吉田神社から金戒光明寺にかけての一帯は落ち着いた緑の風景を作り出しており、周りの市街地から見ても独特の地域景観を醸成する役目を果たしている。

この地域では、銀閣寺から南下する大文字山西麓の帯状地域の落ち着いた山ろく景観、散策路沿いの沿道景観、高台にある建築物等の眺望景観等の維持、吉田山・黒谷の住宅地の和風デザインの水準の向上、市街地における貴重な緑である斜面地の樹木の保全に重点を置く。



1) 東山付近の宅地



2) 銀閣寺の展望所から西への眺め

岸辺型美観地区（哲学の道）

哲学の道地域は、高野から銀閣寺に向かう疏水分流の沿岸一帯からなる。疏水分流沿いの通りは、通称「哲学の道」と称され、桜並木とこれらの樹木越しに立ち並ぶ建築物とが一体となって、瀟洒（しようしゃ）で洗練された岸辺の景観を形成している。こうした景観特性の継承を、この地域の景観形成の基本方針とする。



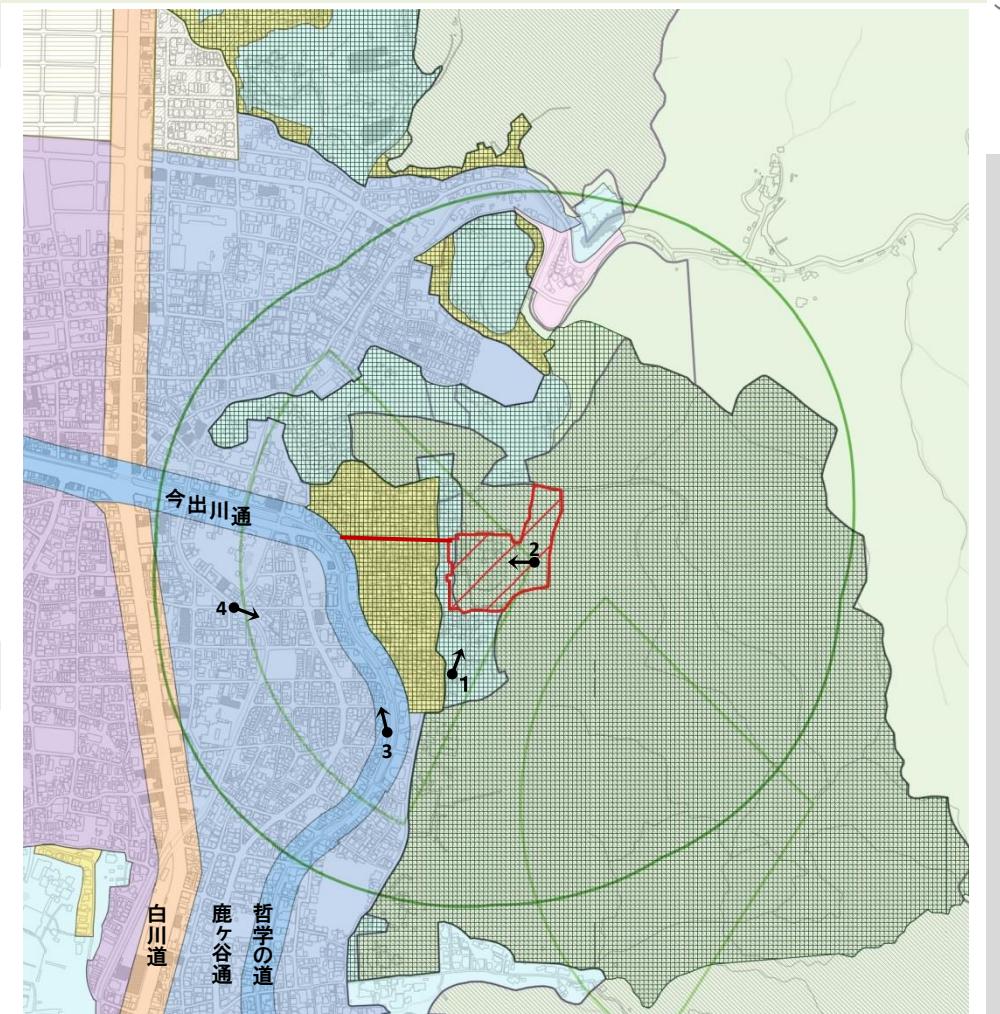
3) 哲学の道

山ろく型美観地区

御蔭通、白川通、丸太町通と比叡山風致地区に囲まれた東山の山ろく部にある北白川・銀閣寺周辺地域は、東山を身近に感じることができ、東山の山懐に抱かれていることを感じさせる場所である。こうした東山の山並みとの連続性を意識させる空間の継承を、この地域の景観形成の基本方針とする。



4) 東山への眺め



【凡例】

眺望景観保全区域

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

風致地区

- 風致地区第1種地域
- 風致地区第2種地域
- 風致地区第3種地域
- 風致地区第4種地域
- 風致地区第5種地域
- 風致特別修景地区

建造物修景地区

- 山ろく型建造物修景地区
- 山並み背景型建造物修景地区
- 岸辺型建造物修景地区
- 町並み型建造物修景地区

その他

- 伝統的建造物群保存地区
- 歴史的風土保存地区
- 歴史的風土特別保存区域

(資料)

- 1) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻 左京区. 平凡社. 1985. p.195
- 2) 千宗室・森谷専久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.244
- 3) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻 左京区. 平凡社. 1985. p.196
- 4) 同上. p.196
- 5) 同上. p.197
- 6) 同上. p.302
- 7) 同上. p.304
- 8) 千宗室・森谷専久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.213-p.214
- 9) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻 左京区. 平凡社. 1985. p.196
- 10) 同上. p.196
- 11) 千宗室・森谷専久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.244
- 12) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻 左京区. 平凡社. 1985. p.195
- 13) 同上. p.195
- 14) 同上. p.197
- 15) 同上. p.302
- 16) 同上. p.304
- 17) 同上. p.304
- 18) 千宗室・森谷専久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.213-p.214
- 19) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻 左京区. 平凡社. 1985. p.196
- 20) 同上. p.196
- 21) 同上. p.304
- 22) 同上. p.304
- 23) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.778
- 24) 同上. p.514
- 25) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻 左京区. 平凡社. 1985. p.197
- 26) 千宗室・森谷専久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.244
- 27) 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 千年の都 世界遺産. 古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市). 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 1998. p.146、p.147
- 28) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.182
- 29) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.738
- 30) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.566
- 31) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.543
- 32) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.625
- 33) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.357